市政羅針盤（らしんばん）

市長が自ら、市政運営の方針を分りやすくお伝えします。　㊐秘書課 ☎ 36-7117

今月のテーマ　財政破綻してから10年経った夕張市から学ぶこと

皆さんは「北海道夕張市」と聞いて何を連想するでしょうか。先月、夕張市を訪ねる機会があり、そこで出会った市民の皆さんから「財政破綻は、市民が目覚めるきっかけだった」「今じゃ、市民が市長（36歳）の親代わりみたいな気持ちで市政を応援してる」という話を次々聴いて、心を揺さぶられました。今月は、夕張市の現状を通して、人口減少、超高齢社会を迎える日本の将来、そして地方の課題を考えてみたいと思います。

かつて炭鉱の街として栄え、約12万人が暮らした北海道夕張市。11年前の2006年6月、税収8億円のまちが353億円もの赤字を抱えて前市長が財政破綻を表明。人口は現在8,538人（7月末）、高齢化率は道内最高の50.05％（5月末）。260人いた市職員は100人に減り、給与も4割カット。市長の月給は、7割カットの約26万円。破綻当時「支出は、命にかかわること以外は全部削る」というスタンスでしたから、住民税など市民負担を最高額に引き上げる一方、市の出先機関や図書館などの公共施設、観光施設を次々に閉鎖。地域医療を担っていた市民病院は、規模を縮小して診療所になり、171床あった病床はわずか19床に。子育て支援や福祉サービス、各種補助金も相次いで打ち切りました。小学校は6校を1校に、中学校も3校を1校に統合。児童数は破綻前のほぼ半数に減り、スクールバスがないため、児童の6割が一般客と一緒の路線バスで通っています。島田市の2倍以上の面積に相当する763㎢の市域に、小中学校がわずか1校ずつです。

夕張市庁舎と鈴木市長

夕張市は破綻した当時、353億円の借金を18年間で返済する計画を立てました。訪問時、返済額は118億円、残り235億円だと伺いました。今年からは「財政の再建」だけではなく、地域の再生や人口の減少を食い止める施策をしっかり加速させ、これまでの再建計画を抜本的に見直し、新たな財政再生計画を策定したいと、鈴木直道（すずきなおみち）市長は力強く語っておられました。

緊縮財政一辺倒を見直して方向転換をしなければ、まちはますます疲弊してしまいます。121戸ある夕張メロン農家の売上高は、昨年度23億2,500万円。夕張応援のために大手企業も進出してきています。現在の夕張市民からは「市民負担を軽くしてほしい」「水道料金が高すぎるから安くしてほしい」という声は、全く出なかったといいます。次世代への投資を求める声ばかりだったことが印象的です。不思議なもので、大きな課題ばかりの現場には、自分の力が役立てられるのではないかと、寄り添う人たちが外から集まってきます。市民も、今まで当たり前にあった行政サービスが削られ、不自由な生活を強いられるうちに「自分たちで何とかしなければ」「一緒にやろう」という、まさに「協働のまちづくり」への思いが強くなっていったように感じました。身内のことを考えるように、わがまち島田を大切に思う市民を増やしていきたい。「市民力」が、島田市の未来を創ります。

「広報ひみ」から

姉妹都市である富山県氷見市から寄せられたイベント情報などをご紹介します。

氷見市と島田市、長野県大町市のスポーツ少年団が8月5日から3日間、姉妹都市交流会を開催しました。

各市持ち回りで、30回目となる今年は氷見市が会場となり、小学生団員や指導者など約120人が参加。氷見市漁業文化交流センターでの開会式の後、氷見市出身のまんが家・藤子不二雄（ふじこふじお）Ⓐ先生の作品に出会える「まんがロード」の散策や魚釣り、海水浴などを行い、交流を深めました。

【潮風ギャラリー開館10周年記念・宝探しラリー】
とき／10月1日㈰～11月30日㈭
※詳細は「氷見市 藤子不二雄Ⓐまんがワールド」公式ホームページ（💻himi-manga.jp）をご覧ください。
問い合わせ／氷見市潮風ギャラリー ☎ 0766-72-4800
氷見市観光交流・女性応援課 ☎ 0766-74-8036